

1/24
公開授業研究会
開催される(高山小)

1月24日(金)に高山小学校において、公開授業研究会が開催されました。これは来年度10月24日に行われる全国へき地教育研究大会群馬大会のプレ発表会を兼ねた研究会で、来賓も合わせ県内から約100名の参加者がありました。

高山小学校では、昨年度から子どもたちによる「学び合い」を取り入れた授業を行っており、その様子を県内の学校の教職員に紹介するものでした。当日は、午前中に全学級の授業を公開し、午後には代表授業、授業研究会、そして講演会が行われました。

代表授業の3年竹組の算数の授業では、子どもたちが4人グループで先生からの課題に対し熱心に相談しながら解く姿が印象的でした。また、講演会では、東京大学名誉教授(現学習院大学教授)の佐藤学先生から、高山小学校の学び合いについての助言や学び合いを行っていく上での大切なことについてのお話をうかがうことができ、有意義な講演会となりました。



平成25年度人権標語入賞作品

高山村人権教育推進委員会・高山村教育委員会では、二十一世紀を生きる子どもたちや村民に、豊かな人権感覚を身に付けてもらうことを目的として、村内の小・中学校と一般村民を対象に、人権標語を募集しました。応募総数295点のうち、厳正な審査を経て次の作品が入賞しましたので紹介いたします。(敬称略)

最優秀賞

考えよう 相手の気持ちの 大切さ
広げよう 思いやりの輪 笑顔の輪
やさしい手 あたたかい心で 繋がる絆

優秀賞

ともだちに やさしくすると うれしいきもち
友だちは 一人一人が たからもの
やめようね わるくち・ぼうりよく いやなこと
ふり返ろう 自分がしたこと 言ったこと
ちよつとまで その言葉を 改めよう
見ないふり 見ているだけでも いじめです
手と手をとって助け合い みんなで広げる 人権の輪
作ろうよ みんなが笑える 環境を
広めよう人権 なくそういじめ 増やそう笑顔
思いやる 心で防ごう 地域のいじめ

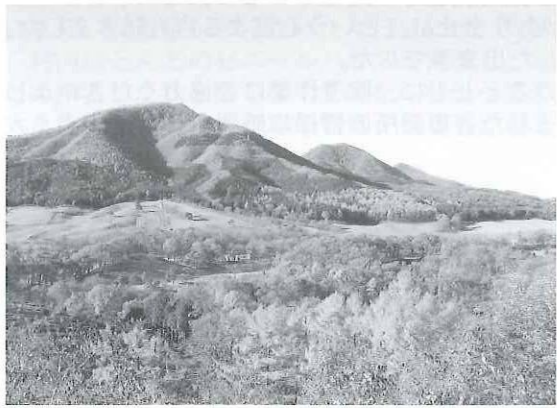
奨励賞

さそいあい みんなあそぼう たのしいな
にんげんは みんなおなじだ なかまだよ
あおい空 いじめをすると 曇り空
友達は 大事な大事な たからもの
いじめたら 相手だけでなく 自分もきずつく
人の気持ちを理解して 自分の心を 広げよう
自分の心も大切に 他人の心も大切に
いじめゼロ!! 明るい未来 明るい世界
人権を みんなで守って みんなで笑顔
ふれあい 人との絆大切に 明るい村づくり

- (小6) 田村 月音
- (中3) 本所 然
- (一般) 田村 好美
- (小1) 山田 悠斗
- (小2) 水口 叶梅
- (小3) 西形 華音
- (小4) 松井 瑚雪
- (小5) 野上 椋太
- (小6) 上出 真由
- (中1) 山崎 美結
- (中2) 高橋 拓也
- (中3) 深石 敦美
- (一般) 佐藤 祐平
- (小1) 武藤 陽翔
- (小2) 田中 萌花
- (小3) 鈴木 実優
- (小4) 関 海音
- (小5) 古俣 成聖
- (小6) 茂木ななみ
- (中1) 佐藤 千尋
- (中2) 小林 市臣
- (中3) 林 大貴
- (一般) 後藤ふさ枝



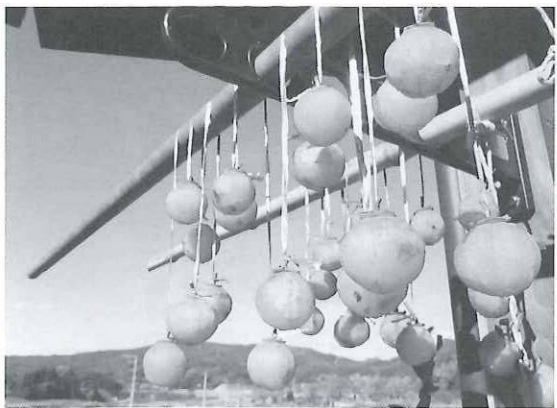
入選
「百万遍念仏」 中嶋輝久



入選
「晩秋の小野子山」 奈良哲男



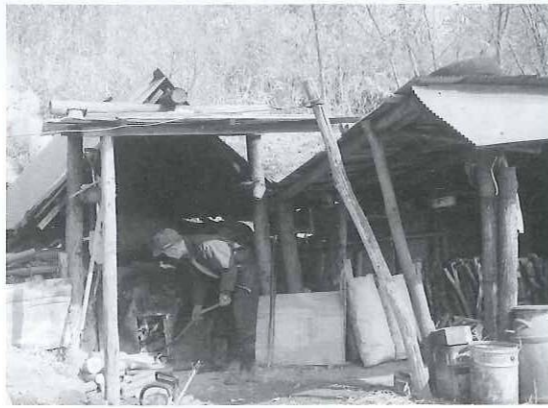
入選
「じいちゃんばあちゃんと僕たち」 武田朝子



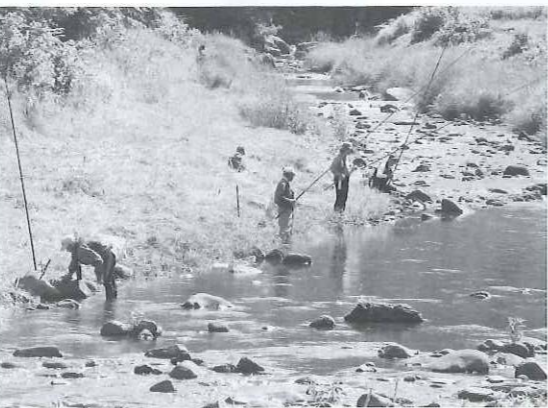
入選
「おいしくなあれ」 林由美枝



入選
「高山村の風は泳ぎやすい」 藤島貴光



入選
「炭焼き」 後藤三郎



入選
「名久田川鮎つり」 中嶋輝久

第3回 高山村の「未来に残したい写真」コンテスト

第3回高山村の「未来に残したい写真」コンテスト、今年も募集を行いましたところ、村内外から96点の応募をいただきました。たくさんのご応募ありがとうございました。その中から10点の入賞作品が決定し、入賞作品は3月16日（日）に高山村生涯学習・社会福祉推進大会にて表彰・展示を行いますので、是非お越しください。

(敬称略)

賞	題名	受賞者
最優秀賞村長賞	新田宿復活祭 パート2	平形作太郎
優秀賞議長賞	やぐら完成後の ひととき	金井恵美子
優秀賞教育長賞	チビッコ伝統芸能	奈良 哲男
入選	高山村の風は 泳ぎやすい	藤島 貴光
	百万遍念仏	中嶋 輝久
	晩秋の小野子山	奈良 哲男
	炭焼き	後藤 三郎
	じいちゃんばあちゃんと 僕たち	武田 朝子
	名久田川鮎つり	中嶋 輝久
	おいしくなあれ	林 由美枝

最優秀賞村長賞

「新田宿復活祭パート2」 平形作太郎



優秀賞教育長賞

「チビッコ伝統芸能」 奈良哲男



優秀賞議長賞

「やぐら完成後のひととき」 金井恵美子



2/14~15 高山村始まって以来の大雪に 多くの被害

2月14日(金)から15日(土)にかけて降り積もった雪が、90センチ~1メートル20センチ積もり、高山村始まって以来の豪雪となりました。

1週間前の大雪(30センチ~40センチ)とは比較にならないくらいの積雪量で、誰もが雪の多さに圧倒される思いでした。

国道、県道(バイパス)以外の道路の除雪が間に合わず、緊急を要する人を優先しての除雪に民間業者や個人で機械を持っている方も応援してもらっての作業となりました。あまりの積雪量に作業が進まず24時間体制で除雪作業を行い、幼・小・中学校も3日間休校となり、孤立世帯は19日に解消されました。積雪が多いため道幅も狭まり、交通量が多くなった4日目には、大型車両が道をふさぎ一時大渋滞になるほどの混乱でした。

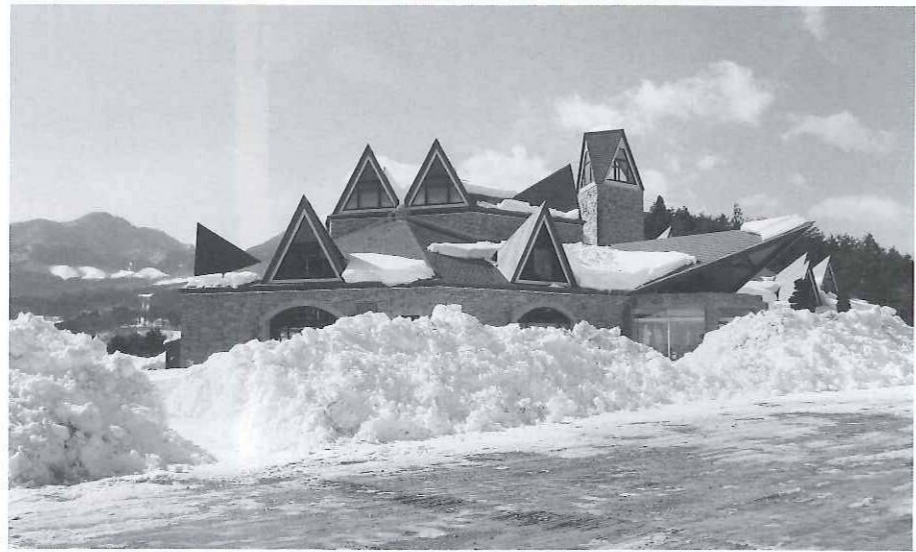
村内ほとんどのビニールハウスが倒壊し、出荷間近のイチゴが全滅したり、酪農家では、集乳車が来られないため搾乳した乳を捨てなくてはならなかったり、かなりの農業被害が見込まれる状況です。

また、雪の重みで倉庫や物置が倒壊した他、車庫倒壊により、下敷きになった車の被害も何件か報告されています。

県内でも前橋市が73センチという記録的な豪雪となったため、山間部よりも除雪が進まず、交通網や物流が麻痺してしまい、村内のガソリンスタンドでは灯油が売り切れ、コンビニエンスストアでは3日間納品がなく、お弁当、パン、冷凍食品は売り切れ、カップ麺、お菓子等の棚も品薄になり、4日目にほんの少量商品が入ってもすぐに売り切れてしまう状態でした。

大雪により除雪が進まないため、家族総出で車が出られるよう100メートル近い距離を人力でかいたり、地域の人たちで集会所までの長い距離をかいたり、また、家から出られず車庫倒壊で困惑していた老夫婦宅を、地域の人達で国道からの通路を開け、倒壊寸前の車庫から壊れた車を出し、病院までの送迎をしたり、『地域の皆さんの協力により本当に助かりました。大変お世話になり感謝のしようがありません。』という心温まる声も届きました。いざというときの家族やご近所の団結力、地域力に改めて感動した出来事でした。

今回の大雪による被害を受けられた村民皆様にお見舞い申し上げますとともに、除雪作業にご協力くださいました多くの村民の方々、何日も夜通しの除雪作業にご尽力くださいました各事業所の皆様に感謝申し上げます。大変ありがとうございました。



一週間ぶりに営業再開となった

ふれあいプラザ

毎日のように電話の問い合わせがあり、村内の除雪が間に合わず、やっと除雪が終わって営業にこぎ着けた温泉施設の駐車場。玄関も見えないほどの雪の量に、道の駅の工事への影響が心配されます。



イチゴハウスの倒壊でイチゴが全滅

イチゴやトマト、育苗ハウスの15棟が全部倒壊し、出荷間近のイチゴが全滅してしまっただ。イチゴハウスの暖房機のスイッチを止めに行くにも、ハウスまでの雪をかき、ハウスの中を這いながらやつとの思いで電源にたどり着き、やむなくスイッチを切った。」と落胆しながら語る農家さん。



早く登校できるようにと、

職員の家族もかけつけて除雪作業

大雪のため、3日間休校を余儀なくされ、4日目から父兄の送迎により1時間遅れで登校。とんでもない雪の多さに、歩道の除雪も手間取っています。



車庫の倒壊で危うく車3台が下敷きに

一晩中降り続いた雪の重みで、車庫の鉄骨が曲がってきたため、慌てて除雪をして車3台を無事出し終わった後に、もの凄い音をたてて倒壊。「車庫は潰れてしまったけど、二次災害を免れて助かった。」と...

2月11日、各地区で家内安全や五穀豊穡を願って、稲荷神社の祭典が行われました。戸室地区は、甘酒やお赤飯をいただきながらくじ引きを引いて、帰りに公民館でうどんやけんちん汁等が振る舞われ、お年寄りから子どもまでが集い賑やかな初午祭りが行われました。

また、関田地区の金甲稲荷神社の山車が、昭和60年に地元有志の手により復元され、翌年復活して今年でちょうど28年目になります。山車は国道145号線を山田商事給油所でUターンし、見沢橋へ戻り田んぼの中を1週します。多くのカメラマンが訪れ、撮影場所も田んぼの中の一部が限定され、少しでも邪魔になるカメラマンがいると怒鳴り声が飛びほどでした。

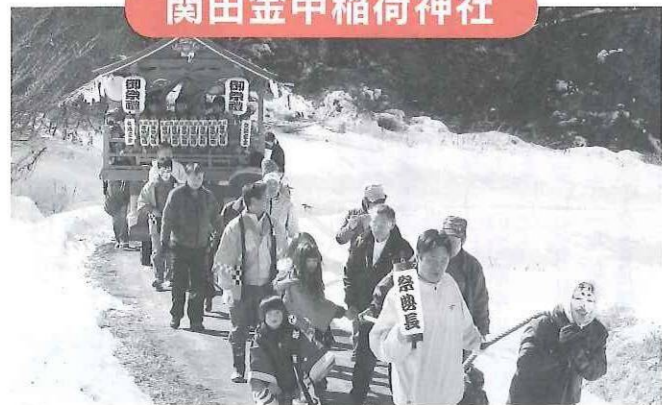
たき火を囲んで甘酒やモツ煮が振る舞われ、焼きそばやおでんの販売もあり多くの人で賑わいました。

山車の引き回しが終わ

北之谷稲荷神社

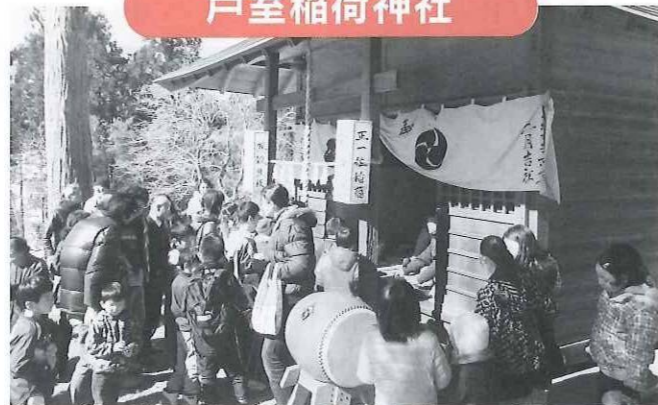


関田金甲稲荷神社



田んぼの中を巡る山車

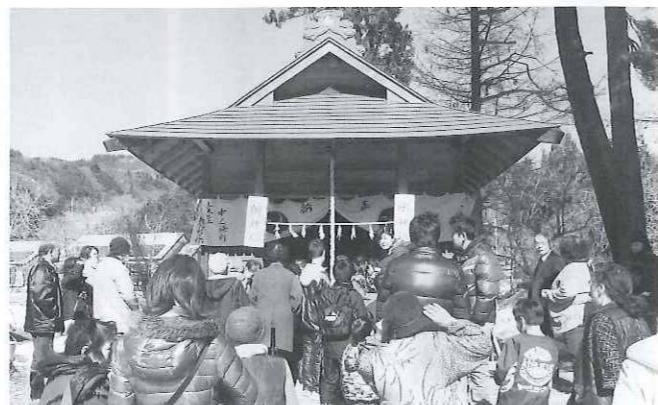
戸室稲荷神社



くじ引きが始まるよ



くじ引きを楽しむ子どもたち



多くの人でにぎわう

2/11

各地区で稲荷神社祭典

と、お腹をすかせた子どもたちはおでんや焼きそばをほおぼり、急いでくじ引きが始まる神社境内への坂道を上っていきました。

くじ引きが始まると、どの子もお賽銭を上げ、手を合わせてからくじを引きます。毎年、地区の役員さんが「はい、手を合わせて」が習慣付いているようです。たくさんのお菓子や景品が入った袋を抱えながらみんな笑顔で帰って行きました。

2月11日、各地区で家内安全や五穀豊穡を願って、稲荷神社の祭典が行われました。戸室地区は、甘酒やお赤飯をいただきながらくじ引きを引いて、帰りに公民館でうどんやけんちん汁等が振る舞われ、お年寄りから子どもまでが集い賑やかな初午祭りが行われました。

また、関田地区の金甲稲荷神社の山車が、昭和60年に地元有志の手により復元され、翌年復活して今年でちょうど28年目になります。山車は国道145号線を山田商事給油所でUターンし、見沢橋へ戻り田んぼの中を1週します。多くのカメラマンが訪れ、撮影場所も田んぼの中の一部が限定され、少しでも邪魔になるカメラマンがいると怒鳴り声が飛びほどでした。

たき火を囲んで甘酒やモツ煮が振る舞われ、焼きそばやおでんの販売もあり多くの人で賑わいました。

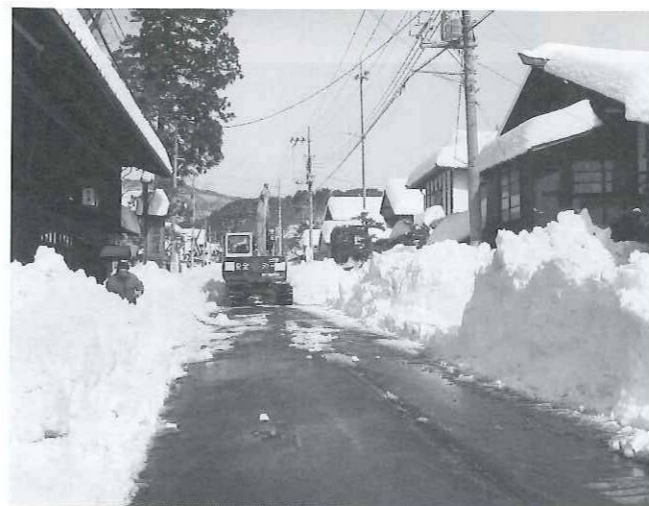
山車の引き回しが終わ



4日目のコンビニエンスストア



家族5人でかいた長い道のり



新田地区の除雪



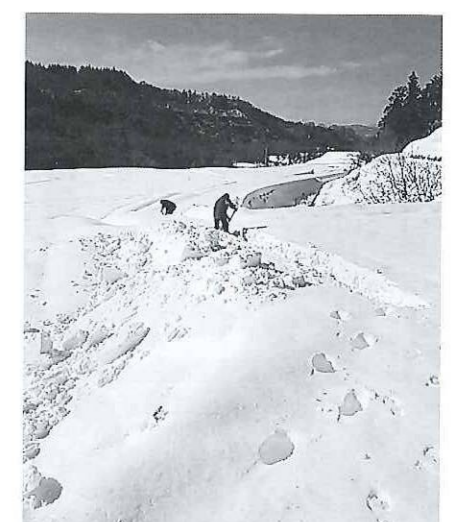
原地区（谷地）



屋根から落ちた雪が見事な雪のトンネルに



雪の捨て場がなく川へ



孤立世帯への除雪
(機械が入れないため700m人力で)

「高山らしさ」を考えて 特産品開発へ

高山村商工会では、全国商工会連合会補助事業「全国展開支援事業」の一環として、観光振興や道の駅開業に向けて、高山らしい特産品の開発を商工会員や農家の方を中心に行っています。

昨年の9月から、村の歴史や風土・農産物を考へ「特産品開発部会」を開催し、1月で第6回目となりました。その間にいろいろなアイデアを出し合い、30品くらいの試作品を考案し、その中から2点を選び、ふたご座流星群の観察会にぐんま天文台で試食会を実施しましたが、おもしろいと評判は上々でした。

村の農産物の中から「こんにゃく、月あかね、マコモダケ」の3点に絞り込み、現在も新商品開発に取り組んでいます。

また、考案だけでなく、加工し販売出来るように保健所の許可の方法や6次産業化（栽培から加工販売まで）を勉強しています。



道の駅開業に向けて商品を開発し、村民の皆様をはじめ、道の駅を訪れた方に高山らしいおいしいものを提供し、いづれは「全国展開」していくように来年度も継続して取り組みたいと思います。

加工販売に興味がある方は是非仲間に入って、楽しくおいしいものを作りたいでしょう。

【問い合わせ先】
高山村商工会
☎63-2200

スポーツ

SPORTS

1/26

高山村 フットサル大会

去る1月26日（日）、第14回高山村フットサル大会が、一般の部は村民体育館、フレンドリーの部は小学校体育館を会場に開催されました。

各チームともハイレベルな接戦が繰り広げられ、見応えのある大会となりました。

成績は、一般の部では「体協サッカーAチーム」が「体協サッカーBチーム」の追撃を振り切り勝利を飾りました。

また、フレンドリーの部では「FCコウキ（たかやまJSC）」がチームワークを発揮し栄冠を勝ち取りました。

選手・役員・関係者の皆様には、早朝よりご協力を戴き、大変ありがとうございました。



大会成績

◎一般の部

〈優勝〉

「体協サッカーA」チーム

〈準優勝〉

「体協サッカーB」チーム

〈第3位〉

「ATEC（アテック）」チーム

最優秀選手賞

体協サッカーA 佐藤俊作 選手

敢闘賞

体協サッカーB 都筑康太郎 選手

◎フレンドリーの部

〈優勝〉

「FCコウキ（たかやまJSC）」チーム

〈準優勝〉

「吾妻Jr B」チーム

〈第3位〉

「吾妻Jr A」チーム

最優秀選手賞

FCコウキ（たかやまJSC）

田村彪向 選手

敢闘賞

吾妻Jr B
丸橋雅耶 選手